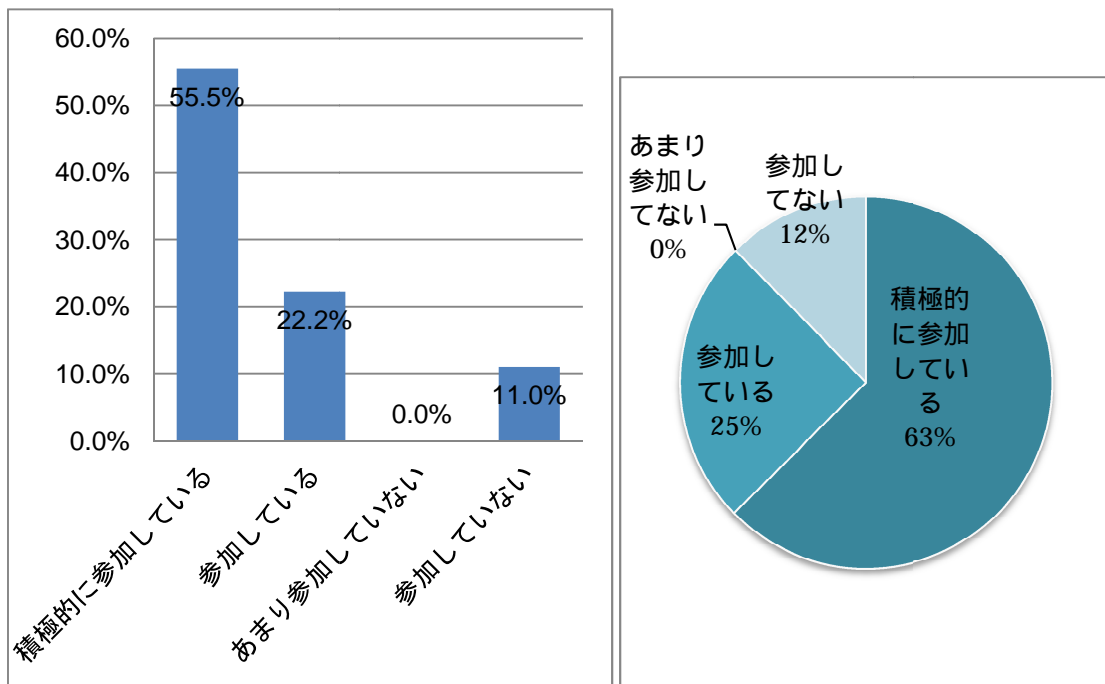


在宅医療・介護連携実施状況調査結果

調査対象・・・三郷市ステーション連絡協議会参加の7ステーション
有効回答・・・18名

1. ケアマネジャーや医療相談員等が開催するサービス担当者会議やケースカンファレンスに参加していますか。

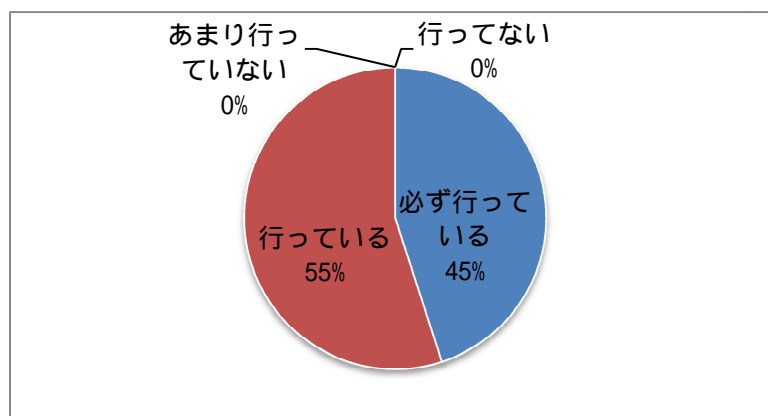
積極的に参加している	55.5%	参加している	22.2%
あまり参加していない	0%	参加していない	11%



参加すると答えた看護師が9割弱いる。なるべく参加できるよう努力をしている。

2 .対象者のケアマネジャーと日常的に意見交換や情報共有を行っていますか。

必ず行っている	45%	行っている	55%
あまり行っていない	0%	行っていない	0%



行っている看護師は 100%。

ケアマネジャーとは日頃からコミュニケーションをとるように心がけている。

3 .急変時の対応が想定される対象者に関し、主治医と話し合っであらかじめ対応を定めていますか。

決めている	100%	決めていない	0%
-------	------	--------	----

緊急時の対応に関しては事前に対応を詰めている。

4 .医療機関や介護事業所と連携するにあたり、負担に感じることがありますか。

ある	50%	ない	50%
----	-----	----	-----

4 - 1 「ある」を選んだ方のみにおたずねします。その理由をお答えください。

- ・ 1 つのことを複数の関係事業所へ連絡する必要があるため
- ・ お互い忙しい中でやり取りするので、タイムリーに連携出来る時とうまくいかない時がある。
- ・ 主治医が常時いない勤務医の場合連絡連携が取れない時がある。
- ・ 重症者が多いと限られた時間の中では調整などが追いつかないことがある。
- ・ 急ぎと思われない内容の時に時間を強いられると、負担を感じる
- ・ ケアマネージャーに連絡だけしてもらいたい。他の職種の方にはケアマネージャーから伝えていただけるとありがたい。
- ・ 往診医や関連病院との連携が多く、戸惑ったり不快を感じる時もある。
- ・ こちらが F A X しても返事がなかったり、なんでもステーションに電話をしてくるので、間に入って大変なこともある。
- ・ Dr が忙しいので、連絡するタイミングなどは考えてしまう。
- ・ 夜間の臨時往診体制が厳しいと感じることもある。

5 . 医療機関や介護事業所との連携に際し、工夫している独自の取り組みがありますか。(例 独自の帳票を作成・使用している、連絡帳で情報共有している、など)

ある 33% ない 66.7%

5 - 1 「ある」を選んだ方のみにおたずねします。差し支えなければその取り組みをお答えください。

- ・ 家族がいない利用者で情報を共有するためのサービスが入っているすべての申し送りノートを作り情報共有している。
- ・ 相談票を作成し、連絡調整を行っている。
- ・ 医療機関が往診の前に F A X している。
- ・ 介護事業所の連携に独自の帳票を作成している。(介護職に処置などを依頼するとき使用。)
- ・ 訪問看護記録を通じて情報を提供する
- ・ 個人に対し、各サービス事業所で同一書類を作り FAX でやり取りをする

6. 三郷市に住む高齢者が在宅生活を続けるにあたり、どのような仕組みがあれば医療と介護の連携が円滑に行えると思いますか。

(例 連携を調整する相談員の配置、使用する書類の統一化、など)

(自由記載)

- ・急性期（入院中）から在宅までの情報や必要事項をまとめたものを共有できるシートがあれば良いと思う。
- ・必要と思われる時には必要に応じて適宜電話、ファクスなどで連絡を入れている状況。新たな仕組みなどについては今は思い当たりません。
- ・主治医に会いに行く。
- ・情報が共有出来るシステムが欲しい。
- ・定期的に情報交換する場があると良いと思います。
- ・情報の共有化を行う（それらをクラウドにおいて情報共有できるようにする。
- ・連携する相談員の配置と意見交換できる場があるといいですね。
- ・各自事業所の交流などがあれば良いです。

【まとめ】

各ステーションの訪問看護師はみな関連機関と連携をとれるように努力をしているのは見受けられた。

病院から帰ってくる際には積極的にカンファに参加して在宅に戻られても滞りなく生活が送れるように準備を整えている。

生活全般はケアマネジャーにコーディネートしていただき、医療面でのサポートは医師と連携をして看護師が行う役割と考えている。